

令和4年度第1回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日 時】 令和4年7月15日（金）10：00～12：30

【場 所】 香川県教育センター 4階第2中研修室

【出席者】 委員8名（欠席3名）、教育センター所長外4名

※傍聴人 なし

【議事概要】 令和4年度事業実施状況について

【主な質疑応答】

○組織・予算について

質疑なし

○調査研究事業について

委 員	高校では、小・中学校に比べてタブレットの配布が遅れているが、今年度中に全校に配られる予定であり、教員は今後どのような授業をしていくのか模索しているところである。本年度のセンター協力学校に高校から希望がなかったということであったが、センター協力学校になった場合は、どういった研究をし、どういった支援を受けられるか具体的なイメージがもてれば、協力学校に手を挙げるのではないか。協力学校になったら、センターの方が現場に来て身近な質問に答えてくれるのか、アンケートをとったりして調査するだけなのか。
事務局	報告書に研究の成果としてまとめていく。効果的に活用されていたポイントや、こうすればうまくいくといったことを普及していくのが前提で、センターの研究に協力していただくことから、成果が出るようにお願いする形になる。成果が出るということは、先回りして、こんな使い方もあります、こうすれば成果が出るのではないかと支援をしておかないといけない。成果が出たところを見てくるのでは、それは学校の研究の成果であって、センターの研究の成果ではない。センターとしては提案をしていく形であり、何度でも行くので、指導案を作る前や授業をする前に今度こんなことをしたいが何か良い手はないかと呼んでいただいたり、電話やリモートでも支援をさせていただいたりして、その成果となる姿を、取材に行き、写真におさめて、こんな形になりましたよと報告させていただくことになる。どんなことでもセンターはサポートさせていただく。
委 員	現場は、たちまち目の前にあるタブレットを使ってどんな授業をしたらいいかわからない、誰か教えてという状態にある。センターが何回も相談に応じてくれるのであれば、そういった具体的な支援の内容を教えておかないと、もし協力学校どこかしませんかと言われてもなかなか手があげられないのではないか。
事務局	校長会等、機会をとらえて、センターの協力学校になるとお得だよ、こんな使い方ができると提案する場合はセンターから機材も持ち込むよと紹介したり、そういったことを個別にお話ししたりしていきたい。私たちにとっても現状を知ることは大事で、現状はこうであった、こういったことも提案すべきだったなということで研究も進みますので、委員からもご紹介いただければ助かります。

委 員	本当に初歩の段階から、子どもたちが使う以前のところからしっかりサポートしてもらえるのか。子どもたちが使う前のタブレットをどう管理したらいいのか、そういった初歩的なことから最後の成果まで関わってくれるということか。
事務局	学校の職員として支援員のようなことはできませんが、こういう方法がありますといった提案は今でもしているので、ぜひご活用いただけたらと思う。
委 員	これからは「学習の個性化」にも研究を進めるといった話があったが、調査研究をやってきてどういった「学習の個性化」というのがあるのか。
事務局	センターでは、先進技術を用いて、子どもの反応がどうか、子どもの状態がどうか把握したり、AI が個別に対応したりするといった機器を用いた個別化の研究もやってきている。この研究を受けて、さらに、協働的な学びの前に「こういうのを調べてきた」と個別に学んだことを協働の学びに持ち込んだり、協働の学びの中で、「こんなことも思いついた。ちょっと調べてくる。」と個別学習に戻ったりと、学習者自身が個性を発揮する、主体的に学んでいこうとする、そういったものを学習の個性化として引き出していきたいと考えている。グループで対話する中で個が生きる、そのような学び、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実を目指したい。そのためには何が必要なのか、どのような授業デザインをしたらいいのか、学習課題の持ち方とか、見通しの持ち方とか、途中で振り返る振り返りの仕方とか、そういうのを含めて細かな手立てを提案し、子どもたちが自ら主体的に个性的に学んでいくための研究を進めていきたい。

○教職員研修事業について

委 員	教職大学連携研修はどういった方を対象にどういったことをしているのか。
事務局	大学院の授業に参加させていただく研修で、内容としては「資質・能力を育む授業づくり」、「道德関係」、「ICT 関係」「特別支援教育関係」、「管理職向けの学校の危機管理」があり、対象は小中高特の教員をメインとしている。管理職向けについては教職経験4年以上の小・中の教員に限っている。
委 員	大学院の授業は高度なことをやっているのか、再教育的なものなのか、どういった感じなのか。
委 員	教員養成の高度化という中で教育学部の上に大学院があり、大学院に来ている院生は現職の方、学部を卒業してそのまま進学した方が混じっている。そういった中で、ここで提供するの、現職の方に学校現場の研修では中々味わえない研修を提供しようと、15 回中の 2 回分をセットで学んでいただけるものである。学校現場で道德などの研修が増えれば必要ないかもしれないが、なかなか研修は増えない。研修の中には学校現場の研修にすぐ使えるもの、理論的なものを織り交ぜて行っている。またこの研修を受講し、大学院の授業を味わうことで、将来教職大学院で学んでほしい、学びの機会になってほしい。
委 員	令和3年度のアンケート結果について、「オンライン上での研修を充実させていくべきか」に対して、高校の数値が 46.7%が当てはまらないと答えており、半々の結

	果となっている。この半々の結果というのは何か問題があるのではないか。どういったことが考えられ、改善するのか。小・中が突出して、「当てはまる」が多いのに対して、高校は「当てはまらない」が多いのはなぜか。
事務局	なかなか分析は難しいが、小・中は人数が多く学校数も多いため、集まるのが怖いという部分は確かにはあるのかなと思う。逆に高校の場合は教科の学びといった場面もたくさんあり、数学ですと10経でも多くて6人といった感じで、「集まれないのか」という声は聞く。
委員	現場で研修を受けられることを喜んでいるということは、やっぱり小・中の先生は忙しいのか。
事務局	小・中の先生は子供につきっきりなので、出にくいというのはある。
委員	高校は環境が悪いというのはある。やはりどこかの部屋に缶詰めとなってやらないと受けられないし、それであっても、やはり状況の悪さというか、学校全体の環境がまだ十分でない。また、先ほど教科の話が出たが小規模校だと同じ教科の教員が自分一人しかいないという学校もある。本当は誰かに相談したいが自分しかいない、そうすると初任者研修や中堅研修というところで顔を合わせたら「こんなことで困っているんだけどみんなどうしているのか」と聞ける。それがオンラインだとなかなかできない。そういったことで、最初1年目はコロナは怖いし集まらなくていいからオンラインでよかったと思っても、2年目になると、やはり対面でやらないとうまく交流できないということに気付いて、2年目は数値が下がってくるというのもある。
委員	若い先生方が挫折してしまうことがある。新採研修で集まって仲間ができて電話で聞けるような仲間ができたなら心強いが、そういうのが今できないから、優秀な先生、元気だった先生が暗くなっていくということもある。オンライン研修で効果が得られるものと、やはり集まることで効果が得られるもの、中身プラス横のつながりが得られるものを私たちは経験してきた。これからは県として、これはオンラインで効果があるものといったふうに、選択してセンターの研修を行っていただきたいと思う。

○教育相談事業について

委員	初めてスクールカウンセラーになった人の初任者研修的なものはできないか。初めて学校現場でカウンセリングをする方にとって、教員との連携が課題になることがある。生徒や保護者への接し方、教員とのチームづくりなど、初めて学校現場でカウンセリングする方に対しての研修があればいいのだが。
事務局	教育センターは、スクールカウンセラーを指導したり研修したりする立場にはないが、個々の学校によって、受け付けている相談の内容や必要なことは違ってくると思うので、学校ごとのコンサルテーションとして、センターの相談をご利用いただければと思う。

○カリキュラムセンター事業について

質疑なし

○その他について

委 員	私の園にも初任者研修を受けている者と中堅研修を受けている者がいる。初任者研修はコロナの関係で仕方がないが、資料送付で研修に代えるということもあった。先ほど皆さんも言っていたように、違う園の職員と保育のことだけではなく、悩みについても話したいという思いもあるので、集合研修がありがたいと思う。中堅研修の職員は、こども園では一日中子どもがいるため、幼稚園よりも研修の時間の確保が難しいという感じである。教育センターの専門研修を受けると張り切っていたが、希望が多くて受けられなかったのが、人数について検討を願う。
委 員	研修事業の「今後の検討事項」のうち「教員免許更新制廃止に伴う検討事項」があるが、自分の年度に更新していなくて廃止になった場合、その方の免許はどうなるのか。
事務局	申請により復活可能である。
委 員	香川県では、校内研修とセンターの研修を一生懸命やっていたら、免許制度がなくても力をつけていけると昔から思っていた。教育センターの研修では校内研修ではできない研修ができるので、2つ合わせると本当に先生方の力をつけていけると思っている。電子黒板やタブレットを使って効果的な授業を、1年目2年目とこんな使い方もできるんだと先生方は見つけて実践しているが、より効果的な使い方を研修で身に付けられるのではないかと期待している。
委 員	「学習の個性化」について質問したが、「協働的な学び」の中で、個性を発揮できない、対話に乗れない場合どうしたらいいかと、通級学級の先生から質問や助言を求められることがあり、どういった方向性にあるのかと思い質問した。学校の方でも校内研修を地道に行い、またセンターに支援を受けながら進めていきたい。
委 員	SNSの普及もあり、社会の変化がすごく激しい中で、子どもたちは過敏に反応したりしており、プラスの面もあるがマイナスの面もかなりあるので、そういったことに臨機応変に対応体制をとって、様々な悩みや心労のサポートをできるだけ細かにやっていただきたい。センターの全体予算が減っているが、県の財政部門に強く主張して、人材育成について先生の役割は大変重要であるから、教育予算を減らさないようにセンターを運営していただけたらと思う。